とちぎのボランティア・社会貢献活動や協働の取組を応援する情報誌

ぽ・ぽ・ら magazine

2023 Summer

Vol. 36

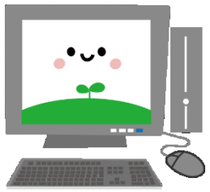
特集

社会貢献活動の情報化を進めよう！

～キラっとちぎ人～
うつのみや百年花火
学生団体Rainbow

とちぎボランティアNPOセンター

特集



社会貢献活動の情報化を進めよう！

～栃木県内NPO等の活動の情報化 支援に係るアンケート結果から～

ＮＰＯ法人やボランティア団体は、様々な社会課題の解決に日々取り組んでおり、今や社会に欠かせない存在となりました。しかし、こうしたＮＰＯ等の情報が、県民に十分に届いているとはいえない現状があります。とちぎボランティアＮＰＯセンター「ぽ・ぽ・ら」では、昨年度、「栃木県内ＮＰＯ等の活動の情報化支援に係るアンケート」を実施しました。併せコロナによる影響についても伺いました。

アンケートでは、各団体の情報化の現状と併せコロナによる影響についても伺いました。

社会全体のデジタル化が急速に浸透していく中、ＮＰＯ等の情報化を進めていくためにはどのようなことが必要なのか、アンケート結果を見ながら考えてみたいと思います。

・調査期間：2022年12月 6日～24日
・対象：県内のNPO法人及び「ぽ・ぽ・ら」登録団体 822
・有効回答数：155 ・回収率：18.9%

団体の活動状況について

図1：コロナ禍（2020～2022年度）により、どのような影響があったか？

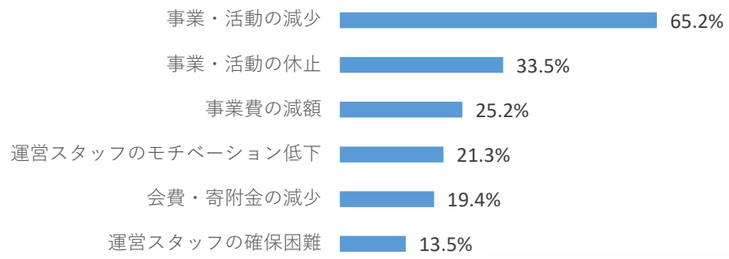
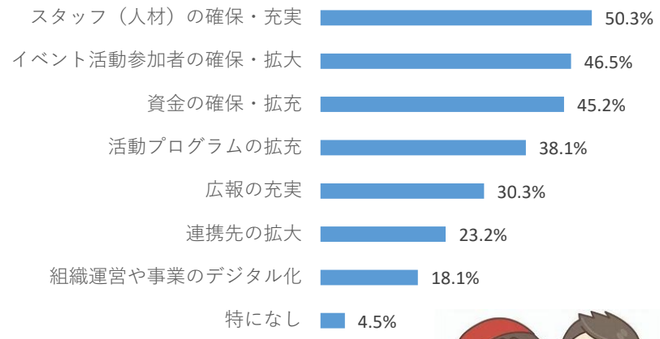


図2：今後、特に力を入れたい取組



ここでは、アンケートの10設問のうち、主なものをご紹介します。このほか、自由記述にも貴重なご意見を多数いただきました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

◇コロナの最大の影響は「事業・活動の減少」

「事業・活動の減少」65.2%、「事業・活動の休止」33.5%、「事業費の減額」25.2%となっており、コロナにより、各団体は多大な影響を受けたことが分かります。一方で、自由記述には、「オンラインなどの代替えにより事業を継続した」、「利用者が増加した」、「新規事業を立ち上げた」との回答も見られました。（図1）

◇ウィズコロナの時代、「人材の充実」に取り組みたい

コロナによる「スタッフのモチベーション低下」が心配されたことと呼応するように、「スタッフ（人材）の充実」50.3%が半数以上でした。

また、「イベント活動参加者（ボランティア含む）の確保・拡大」46.5%、「資金の確保・拡充」45.2%と、いずれも高い割合を占めました。（図2）

◇情報発信の主な媒体は「ホームページ」がトップ

独自のホームページを持っている団体が多く、「ホームページ」が61.3%と最も高くなりました。また、パンフレット・冊子」51.6%、「チラシ」43.2%、「イベント・活動」36.8%の割合も高く、紙による広報も広く行われていることが分かります。また、「Facebook」25.8%も普及してきています。（図3）

◇インターネットの用途は「電子メール」が8割以上

「電子メール」83.2%が最も高く、「ホームページやブログの運用」55.5%、「活動関連情報の入手」52.3%も5割以上となっています。また、「オンラインセミナー等への参加」39.4%は、コロナの影響でオンライン活用が進んだことが特徴的です。さらに、「SNSの利用」も37.4%あり、SNSも積極的に活用されるようになってきたことが分かります。（図4）

◇情報化を推進するための多様なニーズ

「機材を購入するための助成金等の情報」31.0%が最も高く、「ホームページの作り方やSNSの運用方法の講座・支援」26.5%、「動画作成に関する講座・支援」17.4%、「クラウドファンディングのやり方に関する支援」16.1%、「エクセルや会計ソフトの使い方に関する講座・支援」13.5%と、様々なニーズが見られました。（図5）

◇皆さんの団体の情報化を応援します

全体として、県内NPO等の情報化は進みつつありますが、一方で、人材や資金面などの課題も多いようです。

活動や運営の情報を分かりやすく効果的に発信して信頼度を高め、仲間や支援者を増やしていくためには、IT活用が不可欠です。

「ぽ・ぽ・ら」では、今年度、社会貢献活動の「見える化」に取り組んでいます。担い手育成の講座や助成金情報の提供などを通じて、団体の情報化を応援しますので、お気軽にご相談ください。

情報化の現状について

図3：活動（事業）について、どんな媒体を使い発信しているか？

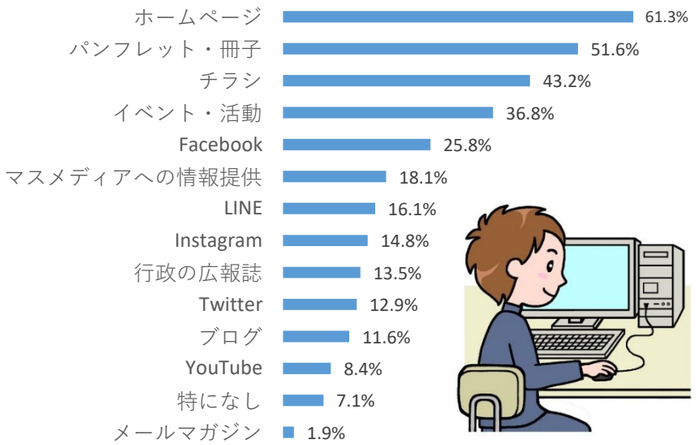


図4：インターネットの主な用途

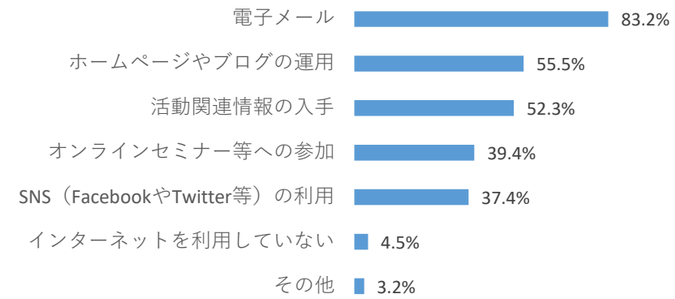
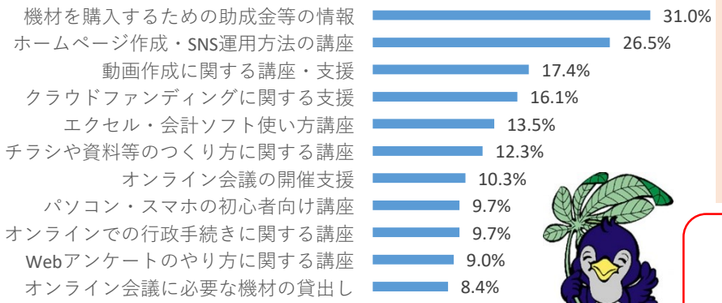


図5：活動・運営について、どのような情報化支援があると良いか？



◆お知らせ◆ ～活動の見える化・ストーリー化で～NPOの「ファン獲得」連続講座を開催します！

山田泰久氏（公益財団法人日本非営利組織評価センター業務執行理事）を講師に迎え、団体活動を応援してくれるファンを増やすためのノウハウを4回シリーズで学びます。ぜひご参加ください。お申込みは右のフォームから→

・第1回：2023.7.22（土）・第2回：8.3（木）・第3回：8.24（木）・第4回：9.16（土） 定員：各回20名程度 参加費：無料

～協働ちょっといい話～

宇都宮大学地域デザイン科学部　石井先生にうかがいました

栃木県社会貢献活動促進懇談会会長
宇都宮大学地域デザイン科学部
准教授　石井　大一朗

高校生の「つぶやき」が生み出す新しい協働

◆協働の25年を批判してみる

新しい協働を考えたいと思う。その前に、これまでの協働とは何か。それは1998年のNPO法施行以来、自治体とNPOの協働を軸として異なるセクターの組織同士が強みを生かしあい、弱みを補いあい、社会や地域の課題解決を目指して取り組んできたものである。こうして生まれた協働型社会は、25年を経て、市民視点を生かした公共的な活動を生み出すなど多くの成果があった。他方でいくつか課題も明らかとなった。いくつかの課題のなかで、これからのまちづくりにおいて、私が心配している点は次のようなことである。一部の人や特権化した人のみしか、まちづくりや協働に加われない状況を生み出していないかということである。

◆固定化・特権化するまちづくり、協働

例えば自治会町内会やNPOに関わりを持てない人はまちづくりに参加しづらいのではないか。また協働について言えば、自治体や企業は一部の団体と関係を構築することとその後も関係を継続することとなり、新たな団体等の協働機会の獲得や成長の機会を削いでいる状況もある。このように協働を批判的に捉えると何をすべきかヒントが見えてくるかもしれない。

◆まちや活動に関わる新たなルート

では、これからのまちづくりや協働に何が大切かと言えば、その一つが自治会やNPOだけではない第3の参加のルート、つまりこれまでにまちや活動に関わりをもつことができなかった人に向けた場や機会をつくることである。これにより、既存の参加のルートとは異なるまちや活動への関わり白が生まれ、いつもとは違う人との出会いや組織との協働、アイデアが生まれることが期待できる。

◆出会いがたくさんあるまち

出会いや協働を生み出す場や機会が多彩にあるまちは、まちのことを想う人が増え、その中のひとの何人かは地域の課題解決に向かう人もいるだろう。私が近年こうした考えをもとに、注目しているのが、地元に暮らすことが最後になるかもしれない高校生を核とした協働のまちづくり、そして、地域企業と自治会町内会の協働のまちづくりである。ここでは前者の事例から、これからの協働に必要なエッセンスを探ってみたい。

◆高校生の「つぶやき」が生み出す新しい協働

高校生が参加するまちづくりは近年、栃木県内でいくつか生まれつつある。そうした中でも私が注目しているものに、3年目を迎える、真岡まちづくりプロジェクト「まちをつくろう（通称まちつく）」がある。高校生が、「あったらいいな」「やってみたいな」とつぶやくと一緒にやりたい人が現れたり、地域の大人の力を借りたりして叶えられる。こうした、「つぶやき」を起点にしつつ、地域の大人たちがチームをつくり、高校生と大人といった世代を超えた市民同士の協働や、地元企業、NPOとの協働といった多彩な協働の機会を作り出している。これまでにそうした協働で実現しているものに、遊休化している河川敷におけるドッグランの整備や本のリユース、庁舎内の低利用な場を活用した居場所づくりや寺子屋事業などである。

◆まちづくりや協働を楽しみたい人はたくさんいる

高校生のアイデアや活動を、地域の大人や自治体職員が支え、人、もの、寄付など、借り物競争のような協働（支えたい気持ちと行動）を生み出している。同じことを自治会町内会やNPOがいつもと同じメンバーで実施していたとしたら、こうしたことは生まれにくい。これまでまちづくりの主役として照らされることのなかった新たな市民に注目することで、まちに、新たな支えたい気持ちを持つ人や団体が生まれ共に行動したいという力が育まれる。栃木県内でこうした新たな市民の活躍を支える協働に期待している。

キラっとちぎ人

県内で活躍する人や
ＮＰＯの取組を紹介します。

NPO法人うつのみや百年花火

副会長　橋本　太士郎さん

百年先の花火大会を目指して

1984年に「祝'84とちぎ博きぬ川大花火大会」として始まった「うつのみや花火大会」は2003年からの開催中断を経て、2007年に市民有志の思いにより復活を遂げました。来場者数は年々増加して観客数40万人を超える規模となりました。ボランティアの手による運営で開催を続ける花火大会。その組織運営はどのようなものでしょうか。

うつのみや百年花火では、たとえ学生であっても会長を担えるような人づくりを目指して、毎年執行部を作り変えながら組織運営を続けています。橋本さんを含め、ボランティアメンバーから大会運営に参加した人は現場を担う各チームで経験を積みます。そのメンバーの中から各チームのリーダーが生まれます。大会全体を指揮する執行部メンバーはリーダー経験者が指名されます。新任のリーダーが判断に迷ったときは相談に応じ、適切なアドバイスができます。

また、毎年丸一日かけて次年度への引継ぎのための会合も開かれており、大会運営の手法は次の人たちへとスムーズに受け継がれていきます。

それぞれのチームのやり方に対して執行部が特別に指示することはありません。

各チームリーダーがより良い方法を模索し、結果的には団体が目指す方向へと進むことができています。

執行部メンバーがチームリーダーの個のチカラを信頼して任せることも、一つのリーダーシップのかたちといえるのではないでしょうか。2020年と2021年は全国的なコロナウイルス感染拡大を受け、2年連続で花火大会が中止になりましたが、執行部の交代はこの年も続けられました。新しい人の活躍に期待し、新たなチャレンジがしやすい土壌がつくられています。

メンバー同士の話し合いは時に熱を帯び、会議の場では当然意見のぶつかり合いもあります。それでも「花火大会を成功に導く」という共通のゴールが橋本さんを含めたメンバー全員の原動力です。花火大会が宇都宮の文化、コミュニケーションツールになってほしい。夏が近づけば、今年も「花火を見に行こう」と宇都宮市民の話題になればいいと橋本さんは熱く話します。

NPO法人うつのみや百年花火　〒320-0051　宇都宮市上戸祭町388　TEL:028-600-3980　MAIL:info@utsunomiya-hanabi.jp

学生団体　Rainbow

代表　栗原　杏奈さん
副部長　松川　柚穂さん

虹の架け橋がつなぐボランティア活動

「学生団体Rainbow」は勉強を教え合う寺子屋大作戦、児童施設を応援するチャリティバザー、障がい者支援施設での活動や、防災減災活動での持ち出しグッズの確認やアルファ米の普及啓発など、多岐な活動に取り組む団体です。これらの活動の原動力はどこにあるのか？代表の栗原さんと、副部長の松川さんからお話を伺いました。

栗原さんと松川さんは仲の良い幼馴染です。ボランティア活動のきっかけを聞くと、小学4年生の時に母親に勧められ「イオンキッズボランティア」に参加し、また5年生になると松川さんも参加したことに始まります。しかし楽しかったボランティア活動も、中学生になり部活が始まると参加が難しくなりました。栗原さんは同年代とボランティア活動ができる場所を探して回り、東京のボランティアグループに所属しましたが、コロナの影響で活動に至りませんでした。

それでも、栗原さんは「無ければ作ればいい」と考え、母親に作り方を相談し、松川さんをはじめとする友だちに声をかけて「学生団体Rainbow」を結成しました。最初の活動は「無印良品」との協働で行った「ちぎり絵」活動です。来店する方と協力して大きな「ちぎり絵」を作成しました。日ごろボランティア活動を行っていた障がい者支援施設に、作成した「ちぎり絵」をプレゼントしたところ大変喜ばれました。

「Rainbow」の活動の肝は、「やりたい」「こうすればできる」「求められている」の重なる部分を上手に形にしている所にあります。例えば防災減災活動では、「ローリングストックで出てくるアルファ米をフードロスにつなげたい＝やりたい」「活動場所までの移動手段を父兄に頼る。備蓄品を持っている団体とつながる＝こうすればできる」「被災し、避難所に向かう時に持ちきれないほどの荷物を抱えた母親を見て、本当に持ち出さなきゃいけないリストを作ろうと思った＝求められている」といった感じです。

キラキラと活動する2人に、やりがいを聞きました。栗原：全部やりがいを感じています。活動することで笑顔になる人がいる。そこに幸せを感じます。松川：小学生から「ありがとう」と言われると、「私にも役にたてることがある」と感じます。

活動の様子はインスタグラムから
学生団体Rainbow　インスタグラム：https://www.instagram.com/rainbow20072011/

ぽぽら広場

NPO法人ウェブ報告システム 始まりました！

栃木県では、２０２３年３月から、ＮＰＯ法人（法人設立希望者も含む）が行う事業報告などの各種手続きがオンラインでできるようになりました（一部市町を除く）。これまで書面で行ってきた申請や届出が、内閣府ＮＰＯ法人ポータルサイトから入力、提出できるようになります。

※これまで通り書面での提出も引き続き可能です。

オンラインで申請・届出！

毎年度の事業報告書の提出をオンラインで！
ウェブ上で必要事項を入力して書類が作成できます。
一度保存した書類は、所轄庁と共有して提出前の相談をすることもできます。ウェブ報告システムで提出した後は、システム内に保存されるので履歴の管理ができます。システム操作は問い合わせフォームからサポートデスクに問い合わせることができます。

これまでは書面手続のみ

提出内容に修正点があればその都度、再提出の作業が必要でした。くりかえし所轄庁に確認が必要なことも。

中間支援団体や行政書士が申請をサポート！

書類作成作業の支援者として行政書士、中間支援団体（ぽ・ぽ・ら等）にシステムの利用アカウントを付与すると、申請・届出等の手続支援を行うことができます。

利用開始状況
令和5年3月から 栃木県、小山市
令和5年4月から 足利市、佐野市、真岡市、大田原市、矢板市、さくら市、那須烏山市、上三川町、茂木町、壬生町、野木町、塩谷町、高根沢町

内閣府 NPO法人ポータルサイト https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/
サポートデスク
電話 0120-876-531
受付時間 平日 9時30分～12時、13時～18時15分

なお、オンラインで申請・届出等の手続を行った場合でも、以下の添付書類は、郵送又は持参により原本の書面の提出が必要ですので、ご注意ください。
・登記事項証明書 ・住民票の写し ・住所を証する書面(海外在住者) ・納税証明書

Ｃ７サミット開催

２０２３年５月１９日から３日間、広島県広島市においてＧ７主要国首脳会議（サミット）が行われ、１６日１７日には市民団体によるＣ７サミットが開催されました。

Civil Society 7（通称Ｃ７）はエンゲージメントグループと呼ばれる市民により形成されたグループのひとつです。Ｇ７参加国のみならず、Ｇ２０諸国や開発途上国等の市民社会と協働しながら、主に非政府組織・非営利組織（ＮＧＯ・ＮＰＯ）により組織されます。議長国の市民社会が中心となり、７０カ国以上の代表者が複数のワーキンググループをつくり、分野ごとに具体的な提言をまとめ、Ｇ７に向けた発信をしています。

今回のＧ７サミット広島開催では、ワールド・ビジョン・ジャパンの木内真理子事務局長とひろしまＮＰＯセンターの松原裕樹事務局長が共同代表を務め、Ｃ７が立ち上げられました。４月１２日には、Ｃ７から岸田総理へ 「平和、繁栄及び透明性のための持続可能な政策の企画と実施」をテーマとするＧ７首脳への提言書が手渡されています。Ｃ７の働きかけは市民社会が「誰ひとり取り残さない社会」の実現に向けた取組をリードする存在として、今後も重要な役割を果たしていくことが期待されています。

Ｇ7サミットでは毎回の開催にあわせ、エンゲージメントグループがつくられています。このグループはＧ７で議論される分野（気候変動と環境、公正な経済、国際保健、人道支援と紛争、市民社会スペース、核兵器廃絶等）について、Ｇ７の決定に影響を与えるべく、政策対話や提言を行います。

Ｇ７市民社会コアリション２０２３
https://g7-cso-coalition-japan-2023.mystrikingly.com/

Ｃ７について（英文）
https://civil7.org/about-c7/

栃木県誕生150年
みんなで創る、未来のとちぎ

6/10 栃木県誕生150年記念 県民の日イベント

県民の日は、明治６（１８７３）年に栃木県と宇都宮県が合併し、おおむね今の栃木県が誕生した６月１５日を記念して制定されました。今年で１５０年となり、お祝いのイベントが開催されました。

栃木県総合文化センターのメインホールをはじめ、議会議事堂ロビーや県庁舎本館など７か所の会場でイベントが繰り広げられ、出展ブースも２００を越え、県内から大勢の皆さんが来場されました。

総合文化センターのオープニングでは、改めて栃木の歴史をふりかえることができ地域の魅力を感じることができました。Ｕ字工事ステージでは、栃木県ネタ漫才に続き、若者が同世代の仲間とともに、豊かな発想で栃木の未来について考え、描く「若者未来デザイン事業」について福田知事とＵ字工事の二人が、キックオフ宣言をしました。

昭和館前広場では、とちぎ防災・減災フェアが開かれ、防災服を着たとちまるくんがＰＲ、防災クイズやはしご車の搭乗体験が人気でした。

議会議事堂ロビーのとちキャラーズＰＲステージでは、県民の日のマスコットルリちゃんをはじめ、市町などのゆるキャラが次々に登場。全キャラクターによる「とちまるくん体操」では大きな拍手がありました。

各広場や県庁本館の出展ブースも賑わいにあふれ、栃木の魅力を堪能できた県民の日でした。

【若者未来デザイン事業のURL】
https://www.pref.tochigi.lg.jp/c01/kouhou/houdou/miraidezaintop.html

「ぽ・ぽ・ら」新センター長着任のあいさつ　町田英俊

４月より、とちぎボランティアNPOセンター（以下「ぽ・ぽ・ら」）のセンター長となりました町田です。私たちの活動も新型コロナウイルス感染症の影響で、大きく制限されてきました。今年度はそれらを払拭するように、たくさんの活動が再開の兆しを見せています。「ぽ・ぽ・ら」では、会うことが難しい時の代替え手段としてオンライン化を進めてきましたが、今年度は「実際に会う」機会をたくさん作れそうです。画面越しでしか会えなかった皆さんとお会いできるのを今から楽しみにしております。とちぎのＮＰＯ・ボランティア活動をともに盛り上げていきましょう！

栃木県からのお知らせ

輝くとちぎの人づくり推進基金の御案内

県では、女性や若者、高齢者や障害のある方をはじめ、県民誰もがそれぞれの能力を十分に発揮しながら地域づくりの担い手として活躍することができるよう、「輝くとちぎの人づくり推進基金」を設置し、それを活用して各種事業を行っています。

ぜひ、本基金への寄附に御協力ください！

※個人で寄付いただく場合には「さとふる」が便利です。

まだまだ続くよ、栃木県誕生150年！！

6月10日(土)に「栃木県誕生150年記念 県民の日イベント」が開催されましたが、各種協賛行事や若者応援ライブイベントなど、来年3月まで展開していきます。

最新情報、詳細情報については「栃木県誕生150年記念サイト」をぜひ御覧ください！

栃木県誕生150年
みんなで創る、未来のとちぎ

栃木県　150年　検索

～「ぽ・ぽ・ら」基本情報～

開館時間　火～土曜日　9：00～17：00
休 館 日　日曜日・月曜日・祝日・年末年始
駐 車 場　付帯駐車場７台(障がい者等優先)
県庁地下駐車場(２時間まで無料/除く県庁閉館日)
駐車券を事務室までお持ちください。

住　　所　〒320-0032
栃木県宇都宮市昭和2丁目2番7号
ＴＥＬ　028-623-3455　FAX 028-623-3465
Mail　popola@tochigi-vnpo.net

管理運営団体　NPO法人とちぎ協働デザインリーグ

とちぎボランティアNPOセンター ぽ・ぽ・ら

ホームページ
https://www.tochigi-vnpo.net/

ぽ・ぽ・ら ブログ

イベント・助成金情報は こちらから

ぽ・ぽ・ら facebook

■編集後記■

今春以降、再びたくさんの人が集まる行事が開かれるようになってきました。先日の栃木県１５０年記念イベントにも多くの県民が訪れていましたね。とちぎマスコットキャラクターズも大活躍でした。これから夏に向けて、彼らの活躍も続きそう。みなさんのお気に入りはどの子でしょうか？（もちろん、とちまるくんですよね？）